資料　1

地域保健福祉推進協議会

第１回健康あだち２１専門部会報告資料

平成２７年6月１６日

件　　名	「足立区がん検診に関する調査結果」の報告について
所管部課名	衛生部足立保健所保健予防課
内　　容	都補助金（包括補助事業「がん検診精度管理向上事業」）を活用し、区民に対してがん検診意識調査を実施したので、結果について別添【資料１-１】のとおり報告する。 記 《調査概要》 １　調査対象 区内在住の 40-74 歳のうち、層化無作為抽出をした 5000 人（不着だった者：84 人） ２　調査期間 平成 26 年 9 月 26 日（金）～10 月 24 日（金） ３　回収状況 男性 562 人、女性 722 人、性別無回答 61 人含む合計 1345 人から有効回答を得た。 (有効回答率は　27.4%) ４　調査項目 回答者の属性、区のがん検診制度の認知、がん検診受診制度の有無、がん検診の受診状況および受診機会、未受診理由、今後の受診意図、がんにかかることの心配度、がん検診に関する意識、区の検診の印象、区の検診受診のきっかけ、検診結果等

資料１－１

足立区
がん検診に関する調査結果

衛生部保健予防課
平成27年6月

1

調査概要

1. 調査対象
区内在住の40-74歳のうち、層化無作為抽出をした5000人（不着だった者：84人）

2. 調査期間
平成26年9月26日（金）～10月24日（金）

3. 回収状況
男性562人、女性722人、性別無回答61人含む合計1345人から有効回答を得た。
（有効回答率は　27.4%）

4. 調査項目
回答者の属性、区のがん検診制度の認知、がん検診受診制度の有無、
がん検診の受診状況および受診機会、がん検診受診場所を選ぶ基準、
未受診理由、今後の受診意図、がんにかかることの心配度、
がん検診に関する意識、区の検診の印象、区の検診受診のきっかけ、検診結果等

2

がん検診の受診状況（推計）

職域・個人受診を含めると、女性のがん検診の受診率が高く、受診率目標である50%まであと一歩である。

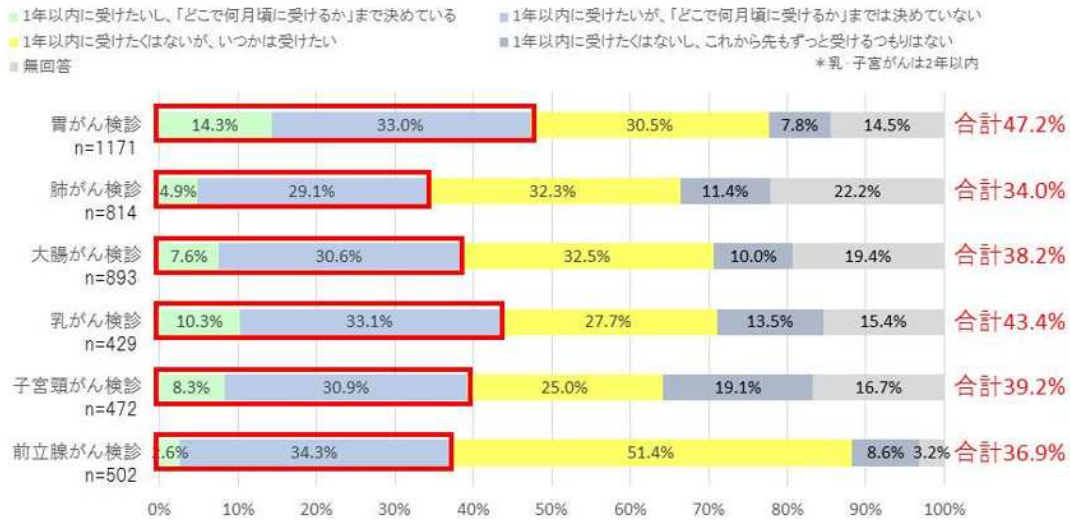
国の目標
平成28年までに50%
（胃、肺、大腸は40%）

※出典：〔肺がん／大腸がん／乳がん／前立腺がん〕足立区がん検診受診者数状況（http://www.city.adachi.tokyo.jp/kokoro/documents/senmon1-1.pdf）
〔子宮頸がん〕足立区算出データ
なお、胃がんハイリスク検診は受診率データがないため、意識調査で足立区の検診で受けたと回答した割合を採用した。（n=1345）

3

がん検診の今後の受診意図（未受診者）

いずれのがん検診においても、受診意図がある人の割合が半数を下回った。



4

＊無回答を除く

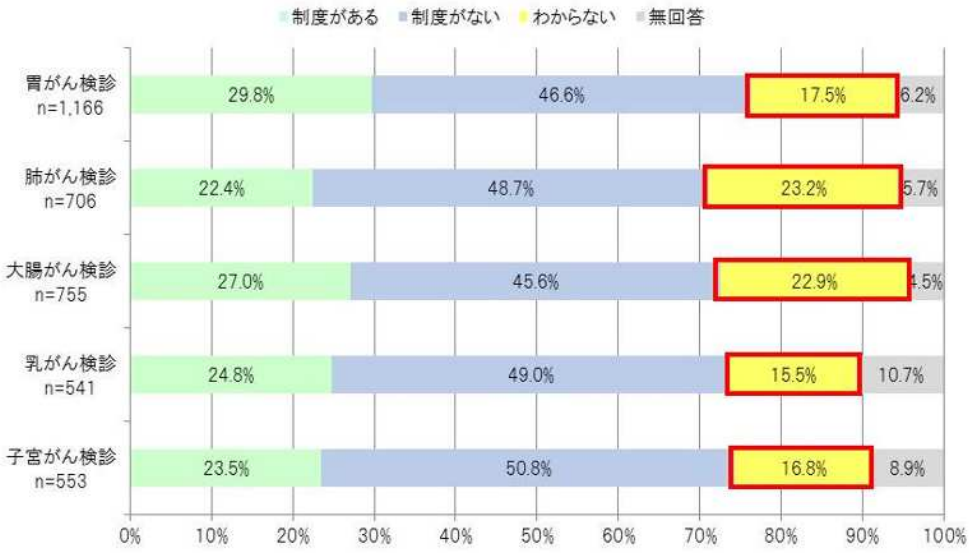
足立区）
区のがん検診以外の受診制度の有無（未受診者）

5

他自治体の事例　A市）
市のがん検診以外の受診制度の有無（未受診者）

6

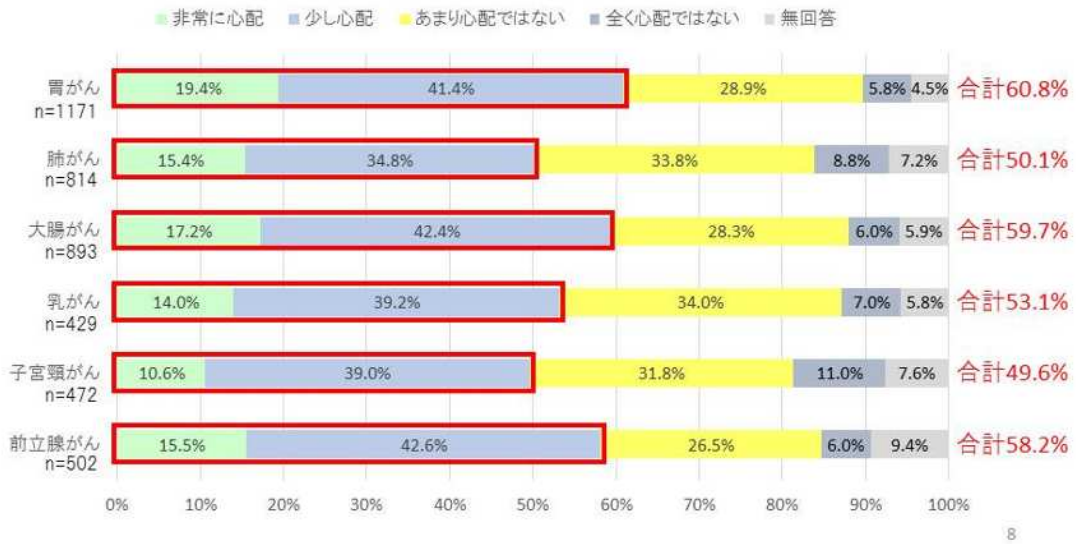
他自治体の事例　B市）
市のがん検診以外の受診制度の有無（未受診者）



7

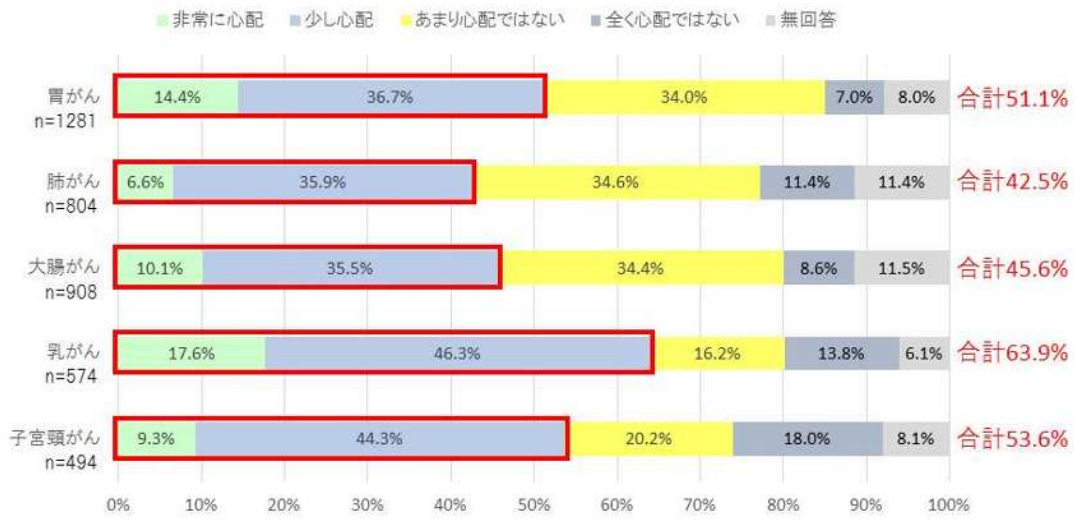
足立区）
がんにかかることの心配度（未受診者）

がんにかかることに対する心配度について、
どのがん種においても心配度は5割弱～6割程度であった。



8

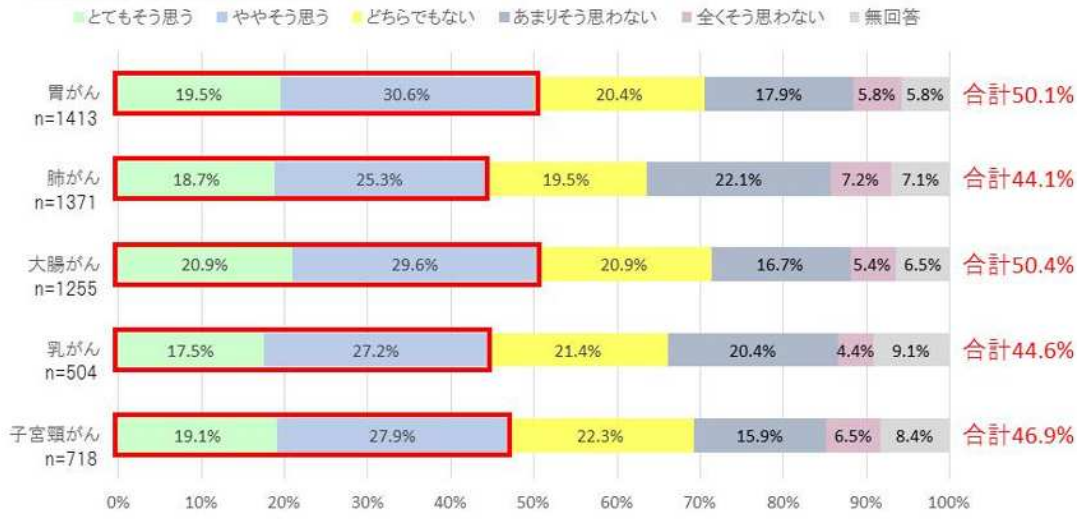
他自治体の事例　B市）
がんにかかることの心配度（未受診者）



9

他自治体の事例　C市）
がんにかかることの心配度（未受診者）

【がんにかかることが心配である】



10

足立区）
がん検診に対する意識（40代・未受診者）

第1位	自覚症状がなくても必要	64.8%
第2位	定期的に受ければがんを小さいうちに発見できる	58.7%
第3位	定期的に受ければ安心できる	55.8%
第4位	受診すると、将来の医療費が安く、寿命も伸ばせる	27.1%
第5位	がんが見つかるかもしれないから不安	24.5%
第6位	検診を受けるお金がない	18.7%
第7位	痛みを伴いそうで不快	16.1%
第8位	医療機関で長時間待たなければならないから、受診は難しい	16.1%
第9位	周りの家族や友人は受診を勧める	9.7%
第10位	食事や薬剤制限がないから負担が少ない	9.4%
第11位	受診の必要性を感じない	2.6%
第12位	検診を受けても意味がない	0.6%

11

足立区）
がん検診に対する意識（50代・未受診者）

第1位	自覚症状がなくても必要	59.9%
第2位	定期的に受ければがんを小さいうちに発見できる	55.6%
第3位	定期的に受ければ安心できる	53.0%
第4位	受診すると、将来の医療費が安く、寿命も伸ばせる	30.5%
第5位	がんが見つかるかもしれないから不安	23.9%
第6位	痛みを伴いそうで不快	18.7%
第7位	検診を受けるお金がない	14.1%
第8位	医療機関で長時間待たなければならないから、受診は難しい	12.1%
第9位	食事や薬剤制限がないから負担が少ない	10.1%
第10位	周りの家族や友人は受診を勧める	6.9%
第11位	受診の必要性を感じない	4.0%
第12位	検診を受けても意味がない	1.7%

12

足立区）
がん検診に対する意識（60代・未受診者）

第1位	自覚症状がなくても必要	54.0%
第2位	定期的に受ければがんを小さいうちに発見できる	50.7%
第3位	定期的に受ければ安心できる	46.7%
第4位	受診すると、将来の医療費が安く、寿命も伸ばせる	27.9%
第5位	がんが見つかるかもしれないから不安	23.9%
第6位	検診を受けるお金がない	16.9%
第7位	痛みを伴いそうで不快	13.4%
第8位	医療機関で長時間待たなければならないから、受診は難しい	12.2%
第9位	受診の必要性を感じない	8.0%
第10位	食事や薬剤制限がないから負担が少ない	7.7%
第11位	周りの家族や友人は受診を勧める	7.0%
第12位	検診を受けても意味がない	0.7%

13

足立区）
がん検診に対する意識（70代・未受診者）

第1位	自覚症状がなくても必要	49.8%
第2位	定期的に受ければがんを小さいうちに発見できる	42.7%
第3位	定期的に受ければ安心できる	41.8%
第4位	受診すると、将来の医療費が安く、寿命も伸ばせる	25.4%
第5位	がんが見つかるかもしれないから不安	16.4%
第6位	受診の必要性を感じない	15.5%
第7位	検診を受けるお金がない	11.7%
第8位	医療機関で長時間待たなければならないから、受診は難しい	11.3%
第9位	痛みを伴いそうで不快	8.0%
第10位	食事や薬剤制限がないから負担が少ない	5.6%
第11位	周りの家族や友人は受診を勧める	4.2%
第12位	検診を受けても意味がない	1.9%

14

（参考）米国疾病管理センターによる がん受診率向上のための方策とその効果

受診率向上に用いられた方策		受診率の増加		
		乳がん検診（マンモグラフィ）	子宮頸がん検診（細胞診）	大腸がん検診（便潜血検査）
第1位	手紙による受診勧奨（＋付加情報）	14.0%	10.2%	11.5%
第2位	スモールメディア（ビデオや印刷物）	7.0%	4.5%	12.7%
第3位	（費用以外の）障害の除去（アクセス向上など）	17.7%	?	16.1%
第4位	1対1の教育（電話や面談）	9.3%	8.1%	?
第5位	自己負担費用の軽減（無料化など）	11.5%	?	?
第6位	報奨（少額の現金やクーポン）のみ	11.5%	?	?
効果不明	グループ教育	?	?	?
	マスメディアのみ	?	?	?

15

足立区）未受診者の検診制度に対する認識

【足立区のがん検診に対する認識】

	40代	50代	60代	70代
第1位	忙しくて、平日は受けられない（36.8%）	忙しくて、平日は受けられない（29.4%）	実施日時や方法など、制度がわかりにくい（27.9%）	自分が対象かどうかわからない（22.1%）
第2位	実施日時や方法など、制度がわかりにくい（34.8%）	実施日時や方法など、制度がわかりにくい（28.2%）	自分が対象かどうかわからない（20.9%）	実施日時や方法など、制度がわかりにくい（19.7%）

40代・50代においては、「忙しくて、平日は受けられない」という回答が上位となり、
60代・70代においては、「自分が対象かどうかわからない」という回答が見られた。
また、いずれの年代においても共通して、
「実施日時や方法など、制度がわかりにくい」と回答した割合が高かった。

n=1303
＊複数回答
＊未受診者＝全体ー（足立区で実施しているがん検診の種類（胃がんハイリスク・肺がん(胸部レントゲン)・大腸がん(便潜血検査)・乳がん(マンモグラフィ)・子宮頸がん・前立腺がん）を全て受診している人[男性の場合：胃・肺・大腸・前立腺、女性の場合：胃・肺・大腸・乳・子宮]）

16

他自治体の事例　B市）
未受診者の検診制度に対する認識

【市のがん検診に対する認識】

	40代	50代	60代	70代
第1位	実施日や場所が限られているため、受診は難しい（49.2%）	実施日や場所が限られているため、受診は難しい（39.6%）	実施日や場所が限られているため、受診は難しい（26.4%）	実施日や場所が限られているため、受診は難しい（21.8%）
第2位	忙しくて、平日は受けられない（42.3%）	忙しくて、平日は受けられない（30.9%）	がん検診の申込の手続きは面倒くさい（19.1%）	がん検診の申込の手続きは面倒くさい（12.6%）
第3位	がん検診の申込の手続きは面倒くさい（20.8%）	がん検診は受診期間が短いと思う（16.4%）	忙しくて、平日は受けられない（15.3%）	受診したい医療機関が検診実施医療機関に入っていない（11.5%）

n=825
＊複数回答
＊未受診者＝全体ー（市で実施しているがん検診の種類（胃がん・肺がん(胸部レントゲン)・大腸がん(便潜血検査)・乳がん(マンモグラフィ)・子宮頸がん）を全て受診している人[男性の場合：胃・肺・大腸、女性の場合：胃・肺・大腸・乳・子宮]）

17

足立区）
区のがん検診に対する意識（40代・未受診者）

第1位	忙しくて、平日は受けられない	36.8%
第2位	制度がわかりにくい	34.8%
第3位	自分が対象かどうかわからない	29.0%
第4位	受診日や場所が限られていて受診は難しい	25.2%
第5位	申し込み手続きが面倒くさい	22.9%
第6位	医療機関の予約が取りづらい	21.0%
第7位	受診した医療機関で受けられない	14.8%
第8位	受診期間が短い	13.9%

18

足立区）
区のがん検診に対する意識（50代・未受診者）

第1位	忙しくて、平日は受けられない	29.4%
第2位	制度がわかりにくい	28.2%
第3位	受診日や場所が限られていて受診は難しい	25.1%
第4位	自分が対象かどうかわからない	22.8%
第5位	申し込み手続きが面倒くさい	22.2%
第6位	受診した医療機関で受けられない	15.6%
第7位	医療機関の予約が取りづらい	15.3%
第8位	受診期間が短い	10.1%

19

足立区）
区のがん検診に対する意識（60代・未受診者）

第1位	制度がわかりにくい	27.9%
第2位	自分が対象かどうかわからない	20.9%
第3位	受診日や場所が限られていて受診は難しい	20.4%
第4位	受診した医療機関で受けられない	16.4%
第5位	申し込み手続きが面倒くさい	15.5%
第6位	忙しくて、平日は受けられない	12.4%
第7位	医療機関の予約が取りづらい	12.0%
第8位	受診期間が短い	5.2%

20

足立区）
区のがん検診に対する意識（70代・未受診者）

第1位	自分が対象かどうかわからない	22.1%
第2位	制度がわかりにくい	19.7%
第3位	受診日や場所が限られていて受診は難しい	16.0%
第4位	申し込み手続きが面倒くさい	15.0%
第5位	受診した医療機関で受けられない	11.7%
第6位	医療機関の予約が取りづらい	8.0%
第7位	忙しくて、平日は受けられない	5.2%
第8位	受診期間が短い	4.7%

21

（参考）他自治体における「受診のきっかけ」

	A区	B市	C市
調査実施年度	平成２２年度	平成２４年度	平成２４年度
人口規模 （サンプル数）	25万人 （2,612人）	20万人 （2,084人）	14万人 （2,099人）
第１位	区から送られてくる 受診案内 59.8%	市から送られてくる 受診案内 75.4%	市から送られてくる 受診案内 74.0%
第２位	医療関係者（医師） からの勧め 40.1%	対象年齢に対する子 宮頸がん・乳がん検 診クーポンの送付 43.0%	複数のがん検診が同 時に受けられること 45.8%
第３位	職場での受診案内 20.9%	市報による情報提供 39.0%	対象年齢に対する子 宮頸がん・乳がん検 診クーポンの送付 33.1%

22

足立区におけるがん検診を受けるきっかけ

23

まとめ

①足立区における本当の受診率の把握

いずれのがん検診においても、目標値達成には至っていないが、
目標値に迫ってきている。
特に肺がん検診は区のがん検診の受診率が低いため、区の受診率の
向上により、受診率目標を達成できる可能性があると考えられる。

②受診率の向上のために効果的な方策の検討

- 受診のきっかけとしては、区から送られてくる受診案内が有効と考えられる
- 未受診者では、特に40代・50代において、がんに対する心配度が高い
- いずれの年代の未受診者においても、区の検診制度が十分に伝わり切っていない可能性が示唆された

24

資料　2

地域保健福祉推進協議会

第１回健康あだち２１専門部会報告資料

平成２７年6月１６日

件　　名	平成２６年度がん検診の実施状況について
所管部課	衛生部足立保健所保健予防課
内　　容	１　がん検診受診状況 別添【資料２-１】のとおり

●がん検診受診者数状況（23,24,25,26年度）

■胃がんハイリスク検診（25年6月開始、23､24年度実績はピロリ検診の受診者数）

	対象年齢者数	対象者	受診者数	受診率
Ｈ２３年度（ピロリ）	－	－	1,376	－
Ｈ２４年度（ピロリ）	－	－	1,419	－
Ｈ２５年度（胃がﾝﾊｲﾘｽｸ）	312,740	189,201	6,983	3.7%
Ｈ２６年度（胃がﾝﾊｲﾘｽｸ）	**316,177**	**191,280**	**7,091**	**3.7%**
増減数(26年度－25年度)	3,437	2,079	108	－
増減率(26年度/25年度)	101%	101%	102%	－

■肺がん検診(26年6月より医師会へ委託)

	対象年齢者数	対象者	受診者数	受診率
Ｈ２３年度	189,352	247,783	161	0.1%
Ｈ２４年度	377,710	251,547	166	0.1%
Ｈ２５年度	383,318	255,289	211	0.1%
Ｈ２６年度	**389,119**	**259,146**	**1,490**	**0.6%**
増減数(26年度－25年度)	5,801	3,857	1,279	－
増減率(26年度/25年度)	102%	102%	706%	－

■大腸がん検診

	対象年齢者数	対象者	受診者数	受診率
Ｈ２３年度	372,060	246,669	17,203	7.0%
Ｈ２４年度	377,710	250,415	19,686	7.9%
Ｈ２５年度	383,318	254,148	21,200	8.3%
Ｈ２６年度	**389,119**	**257,977**	**23,148**	**9.0%**
増減数(26年度－25年度)	5,801	3,829	1,948	－
増減率(26年度/25年度)	102%	102%	109%	－

■子宮頸がん検診

	対象年齢者数	対象者	受診者数	受診率
Ｈ２３年度	277,196	176,567	17,900	20.1%
Ｈ２４年度	278,039	177,105	18,347	20.0%
Ｈ２５年度	278,651	177,499	18,480	19.5%
Ｈ２６年度	**279,759**	**178,201**	**18,613**	**19.9%**
増減数(26年度－25年度)	1,108	702	133	－
増減率(26年度/25年度)	100%	100%	101%	－

■乳がん検診

	対象年齢者数	対象者	受診者数	受診率
Ｈ２３年度	189,352	136,898	11,530	15.3%
Ｈ２４年度	192,497	139,171	11,437	15.8%
Ｈ２５年度	195,313	141,210	12,057	15.8%
Ｈ２６年度	**198,127**	**143,243**	**13,200**	**17.0%**
増減数(26年度－25年度)	2,814	2,033	1,143	－
増減率(26年度/25年度)	101%	101%	109%	－

■前立腺がん検診

	対象年齢者数	対象者	受診者数	受診率
Ｈ２３年度	25,402	25,402	287	1.1%
Ｈ２４年度	25,153	25,153	165	0.7%
Ｈ２５年度	23,346	23,346	422	1.8%
Ｈ２６年度	**21,730**	**21,730**	**415**	**1.9%**
増減数(26年度－25年度)	-1,616	-1,616	-7	－
増減率(26年度/25年度)	93%	93%	98%	－

※対象年齢者数は、各年4月1日現在の足立区年齢別人口より検診対象年齢の人口数を算出。
※対象者数は、対象年齢者数に、対象人口率を乗じた数。
（対象人口率：胃がん＝60.5%、肺がん＝66.6%、大腸がん＝66.3%、子宮がん＝63.7%、乳がん＝72.3%）
・胃がんハイリスク検診は、バリウム検査の対象人口率を使用。
・前立腺がんは、対象人口率が示されていないため、対象年齢者数。
※乳がん検診及び子宮がん検診の受診率は以下により算出。
(前年度の受診者数＋当該年度の受診者数－２年連続の受診者数)／(当該年度の対象者数)×100

地域保健福祉推進協議会

資料　3

第１回健康あだち２１専門部会報告資料

平成２７年6月１６日

<table>
<tr><td>件　　名</td><td>「４０歳前の健康づくり健診」及び「３５歳（若年者）健診」の統合について</td></tr>
<tr><td>所管部課名</td><td>衛生部足立保健所保健予防課</td></tr>
<tr><td>内　　容</td><td>平成２６年度から開始した「４０歳前の健康づくり健診」に「３５歳（若年者）健診」を統合するとともに、実施回数を拡充するなど受診しやすい環境づくりや健診受診への啓発を図り、受診率の向上を目指す。
<table>
<tr><td></td><td>平成２６年度</td><td>平成２７年度</td></tr>
<tr><td>事業名</td><td colspan="2">４０歳前の健康づくり</td></tr>
<tr><td>対象者</td><td colspan="2">１８歳～３９歳の方</td></tr>
<tr><td>場所</td><td colspan="2">各保健総合センター</td></tr>
<tr><td>回数</td><td>３０回（１日制８回、２日制２２回）</td><td>６０回（１日制２８回、２日制３２回）</td></tr>
<tr><td>検査項目</td><td>打聴診・身体測定・血圧測定・血中脂質検査・肝機能検査・血糖検査・尿検査・腎機能検査・痛風検査・貧血検査・体組成測定・歯肉の健康チェック</td><td>打聴診・身体測定・血圧測定・血中脂質検査・肝機能検査・血糖検査・尿検査・腎機能検査・痛風検査・貧血検査・体組成測定・歯肉の健康チェック・胃がんハイリスク検査</td></tr>
<tr><td>自己負担</td><td colspan="2">無料</td></tr>
<tr><td>申込方法</td><td colspan="2">お問合せコールあだち：
電話０３（３８８０）００３９</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

資料　4

地域保健福祉推進協議会

第１回健康あだち２１専門部会報告資料

平成２７年6月１６日

件　　名	平成２７年度「成人歯科健診」の実施方法の改正について
所管部課名	衛生部足立保健所保健予防課
内　　容	平成２６年度まで、４０歳から８０歳の区民の方を対象に実施していた成人歯科健診を、歯の健康状態が不良な若年者層に対象年齢を移行するとともに、受診率の向上を図るために、平成２７年度から以下のとおり改正する。 **１　健診及び勧奨対象** **２　健診費用** 無料 **３　健診内容** ・問診 ・むし歯チェック ・歯周病チェック（ＣＰＩ式歯周ポケット測定） **４　健診場所** 区内指定医療機関

	対象年齢	受診勧奨対象
改正前	４０歳～８０歳の区民 （平成２７年3月３１日現在の年齢）	４０・５０・ ６０歳
改正後	**２０・２５・３０・３５・４０・５０・ ６０・７０歳の区民 （平成２８年3月３１日現在の年齢）**	**対象者全員**

資料　5

地域保健福祉推進協議会

第１回健康あだち２１専門部会報告資料

平成２７年6月１６日

件　　名	平成２６年度こころといのちの相談支援事業の主な取り組み結果について
所管部課	衛生部 こころとからだの健康づくり課
内　　容	平成２６年度こころといのちの相談支援事業における主な取り組み結果および平成２６年足立区自殺者数について報告する。 １　平成２１～２６年足立区自殺者の現状 【資料 5-1、5-2 参照】 ２　当事者に対する支援 （１）雇用・生活・こころと法律の総合相談会【東京芸術ｾﾝﾀｰ会議室】 20 回実施　6 月,9 月,12 月,3 月いずれも(月)～(金)5 日間 来所者 172 人　　相談件数 319 件（複数相談あり） 自殺念慮者 11 人 相談者内訳など　【資料 5-2 参照】 （２）若年者（35 歳）健診での不眠チェック 受診者数 1,749 人中、医療機関受診が必要な者 16 人 （３）遺族支援　分かちあいの会「とまり木」 12 回実施　参加者：実 28 人延べ 59 人 ３　関係機関とのネットワーク構築 （１）こころといのちの相談支援ネットワーク会議 主な参加機関：庁外３２機関、庁内２２課 （２）自殺未遂者ケア研修【足立区医師会共催】１回実施(12/1(夜間)) 参加者：医師、看護師、相談員等 51 人 （12 医療機関、4 地域包括、薬剤師会等関係機関） ４　人材育成 （１）ゲートキーパー研修 【初級】２回実施　(7/22(PM) ,9/18(PM)) 参加者　323 人 対象：職員、民生・児童委員、絆あんしん協力員、区民等 【中級】４回実施　(11/5, 12/9, 12/11(各日 AM), 2/3(PM)) 参加者　253 人 対象：職員（管理監督者)、民生・児童委員地区会長推薦者 【上級】１回実施　(1/19(PM))

参加者　42 人
対象：関係機関職員、区民等

【出張】区内小中学校向生活指導担当教員、帝京科学大学学生等
参加者　325 人

5　啓発

（1）若年者向けの取り組み　特別授業「自分を大切にしよう」

① 区内都立高校(9 校)　実施 3 校 718 人
(H26 年度までに 9 校中 8 校実施済み)
② 区内中学校(37 校)　実施 11 校 1,655 人
③ 区内小学校(70 校)　実施 6 校 728 人

（2）女性向け啓発カードの設置
区内 1,173 店舗　（設置・配布 67,889 枚）
マルイ、ルミネ、アリオ等大型店舗他、スーパー、美容院や装飾など美容関係の店舗、カフェ飲食店など女性がよく利用すると思われる店

（3）春の花火と千本桜まつり、区民まつり、こころの健康フェスティバルでの啓発クイズ、パネル展示、相談カード配布

（4）パネル展示・ポスター掲示・横断幕・懸垂幕掲出等
本庁舎/全図書館/区内路線バス窓上広告/関係各所

（5）ビュー坊テレビにて啓発 DVD 放映

（6）あだち広報自殺対策特集号 ８／２５号

（7）こころといのちの講演会
３月強化月間に各保健総合センターにて実施　参加者計 122 名

資料　6

地域保健福祉推進協議会

第１回健康あだち２１専門部会報告資料

平成２７年6月１６日

件　　名	平成２６年度いのち支える寄り添い支援事業の実績報告について
所管部課	衛生部 こころとからだの健康づくり課
内　　容	「いのち支える寄り添い支援事業」の２６年度実績について報告する。 １　事業概要 いのち支える寄り添い支援事業は、生活困窮等様々な生活上の困難を抱えた区民に、パーソナル・サポーターによる継続的な寄り添い支援を行う事業で、平成２４年度からＮＰＯ法人自殺対策支援センターライフリンクに委託し実施している。平成２５・２６年度は、国の生活困窮者自立促進支援モデル事業を活用し実施した。 ２　事業実施内容 （１）パーソナルサポーターによる寄り添い支援 H24.25.26 年度　個別支援者：152 人 自立達成の目途がった者、危機的状況を脱した者:100 人 自立に向けて支援継続中の者:52 人 内容：面接、相談窓口への同行、電話連絡・相談、訪問 関係機関との連絡調整等 【H26 実績】H26 年度相談者 117 人 ①事前相談のみ、他機関へつなぎ終結:43 人 ②事前相談継続中:22 人 ③個別支援を開始した者:52 人 （２）居場所づくり 当事者グループ活動 内容：食事会（月１回） 座談・勉強会など（週１回程度）10 グループ 実施回数：206 回 参加者：延べ 1,014 人 ３　地域ネットワークの強化 （１）寄り添い支援事業個別事例検討会　月１回 実施回数：１２回 検討事例数：２１件 参加関係機関：ハローワーク、弁護士会、福祉事務所、 保健総合センター、親子支援課、若者サポステ、就労支援課等

	（２）寄り添い支援事業事務連絡会　月１回 実施回数：１２回 ４　区の自殺対策事業への協力 春の花火と千本桜まつり、区民まつりにおける啓発活動等

資料　7

地域保健福祉推進協議会

第１回健康あだち２１専門部会報告資料

平成２７年6月１６日

件　　名	平成２７年度こころといのちの相談支援事業の主な取組みについて
所管部課	衛生部 こころとからだの健康づくり課
内　　容	平成２７年度主に以下の事業を実施する。 １　２７年度のターゲット ・20 代までの男女（一次予防） ・女性（40 代・家庭問題あり　70 代以上・健康問題あり） ・40～60 代　男性（経済・生活問題あり） ２　主な対策 （１）いじめ対策と連動した子ども向け自殺予防対策を構築する。 ①区内小・中学校養護教職員向け研修会の実施（6 月以降実施予定） ②中学校全校および小学校にて特別授業実施 （２）足立区医師会と連携し、自殺未遂者支援策を構築する。 ①区内２６救急指定病院に出向き、区の自殺の現状を共有するとともに、救急指定病院における自殺未遂者の現状を把握する。その際、自殺未遂者相談リーフレット及びくらしと仕事の相談リーフレットを活用し、自殺未遂者が抱える問題を早急に解決できるよう支援する。 ②連携モデル病院（東京足立病院、等潤病院）において 事例による連携⇔課題の明確化⇔連携のあり方を検討 ③医療従事者向け自殺未遂者ケア研修を継続実施（足立区医師会と共催） （３）生活支援課、子どもの貧困対策担当と連携し、自殺対策を強化 ①自殺念慮者及び自殺念慮を抱える恐れのある区民に対し、生活困窮、子どもの貧困という視点も含め、これまで以上に広く対象者をスクリーニングし、問題の困難性が高まる前に、できるだけ早期に包括的な支援につなげる。 ②生活支援課の支援調整会議における委託ケースの選定及びケース対応のバックアップ （４）女性向け対策の継続・拡充 新たに庁内女性個室トイレ及びファミリートイレ（1～3 階）、１階赤ちゃん休憩室に女性向け相談カードを設置する。その他設置可能な区施設について今後検討・依頼していく。

資料　8

地域保健福祉推進協議会

第１回健康あだち２１専門部会報告資料

平成２７年6月１６日

件　　名	精神保健係の移転及び中央本町保健総合センターの名称変更について
所管部課	中央本町地域・保健総合支援課
内　　容	１　精神保健係の移転 （１）移転場所 足立区中央本町一丁目５番３号　足立保健所内 （２）移転日 平成２７年３月３０日 ２　中央本町保健総合センターの名称変更 （１）変更後名称 中央本町地域・保健総合支援課 （２）変更日 平成２７年４月１日

資料　9

地域保健福祉推進協議会

第１回健康あだち２１専門部会報告資料

平成２７年6月１６日

件　　名	東和保健総合センターの移転について
所管部課	足立保健所東和保健総合センター・保健予防課
内　　容	東和保健総合センターについては、東和センターの大規模改修に伴い、東部公園管理事務所跡地へ一時移転する。 移転時期等については、下記のとおりである。 記 １　一時移転先 足立区大谷田三丁目１１番１３号 （東部公園管理事務所跡地） ※電話番号は変更なし　（３６０６）４１７１ ２　移転後の業務開始日 平成２７年7月２１日（火） ３　その他 東和保健総合センター内に設置している東和休日応急診療所についても、東部公園管理事務所跡地へ一時移転する。 移転に伴う準備等のため、平成２７年7月１９日（日）・２０日（祝）（２日間）は診療所を休業する。 （診療所の業務開始日　平成２７年7月２６日（日））

資料 １０

地域保健福祉推進協議会

第１回健康あだち２１専門部会報告資料

平成２７年6月１６日

件　　名	足立区糖尿病対策アクションプランに基づく２６年度事業の概要報告について
所管部課	衛生部こころとからだの健康づくり課
内　　容	平成２６年９月に改定した「足立区糖尿病対策アクションプラン」に基づき、各担当課が事業を実施した。事業実施結果の概要を報告する。 【事業実施結果・今後の方針】 １　野菜が食べやすい環境づくり ・「あだちベジタベライフ協力店」(区民に野菜を食べてもらうため、野菜を提供する店舗。以下、協力店)の数…650 店 ・区民の１日あたり推定平均野菜摂取量…220ｇ（区実施の食習慣調査結果による。別添資料 15-1 を参照。国が示している目安は１日あたり 350g） ・今後は引き続き若い世代に重点を置き、野菜を「手軽に」「気軽に」食べられる調理法などの啓発を実施。また、ベジタベライフ協力店の「質の向上」を目指し、野菜から食べる「ベジファーストメニュー」提供や区考案の野菜レシピ提供店舗を増やすなどの取組を促進。 ２　子ども・家庭の良い生活習慣づくり ・保育園、小・中学校において「野菜の日」を月１回実施 ・糖尿病対策アクションプラン「歯科口腔対策編」を策定 ・「あだちっ子歯科健診」を開始 対象：公立・私立、保育園・幼稚園・小規模保育など、通所している施設を問わず、足立区に居住している４歳～６歳（年少～年長）までの全ての子ども 方法：歯科健診・受診勧奨・結果集計まで区が定めた統一的な方法での歯科健診。足立区歯科医師会協力のもと実施。 ※２６年度は区立・私立の全認可保育所と認証保育所で実施 ２７年度からは私立幼稚園と未通園児も対象 ・今後も引き続き、「一口目は野菜から」の働きかけを継続。 また、「子どもの健康・生活実態調査」の結果から子どもの健康課題を明確にし、今後の対策を検討する。

３　重症化予防

・保健師による重症化予防訪問の実施

対象者※…２３１人（27 年 5 月末現在）

医療機関受診確認できた方…９０人（27 年 3 月現在）

※対象は 26 年度の 40 歳～59 歳の区の特定健診受診者のうち、HbA1c が 7%以上で糖尿病治療をしていない方

・簡易血糖測定の実施

実施回数…１４４回　　測定者数…４，５０８人

区主催・主催外を問わず、様々なイベント会場等において実施

・今後は、医科、歯科、薬科、三師会の連携強化による糖尿病の早期治療導入と治療効果の向上を図る。

また、糖尿病の重症化予防には健診受診率の向上と結果についてのわかりやすい説明など、治療や生活習慣改善への動機付けを行う人材育成も必要である。

【事業成果の提示】

Ｈ２５年度から開始したアクションプランに基づく糖尿病対策も今年度で３年目となる。今までの事業成果等について区民にわかりやすく発信するため、医療費の削減効果などの数値の算定を検討する。

資料１１

地域保健福祉推進協議会

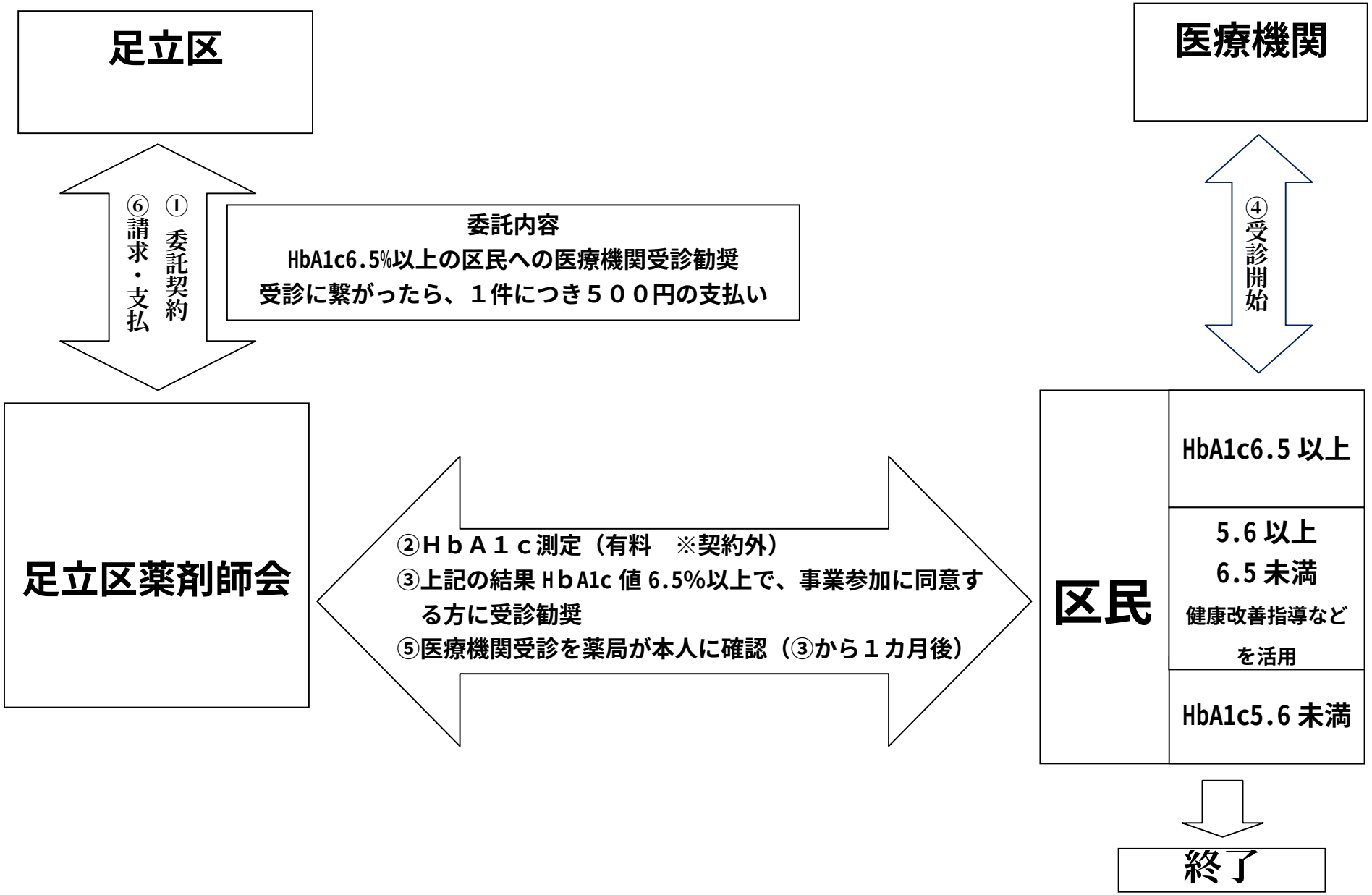
第１回健康あだち２１専門部会報告資料

平成２７年6月１６日

件　　名	糖尿病重症化予防フォロー事業の開始について
所管部課	こころとからだの健康づくり課
内　　容	糖尿病重症化予防施策として、糖尿病が疑われる数値の方に、区内薬局において医療機関受診勧奨と受診確認を行う「糖尿病重症化予防フォロー事業」を開始した。 ４月から試行的に実施し、５月１５日から本格実施している。内容は以下のとおり。 １　概要 一般社団法人足立区薬剤師会が会員薬局（１０店舗）で行うＨｂＡ１ｃ測定の結果、糖尿病が疑われるＨｂＡ１ｃ６．５%以上の方に、医療機関受診勧奨を行う。その方の医療機関受診が確認できた場合、１件につき５００円支払う（資料１１－１）。 原則として、受診勧奨は測定者本人の医療機関受診が確認できるまで行う。 ※ＨｂＡ１ｃ測定は足立区薬剤師会の独自事業として実施。現在は足立区民５００円、足立区民外１，０００円で実施している。 ２　受診確認方法 原則測定者本人がＨｂＡ１ｃ測定を受けた薬局に報告。 場合によっては薬局が患者本人に連絡し、確認を行う。 ３　情報の共有 ＨｂＡ１ｃ測定時に測定者本人同意を得て、足立区薬剤師会と医療機関受診結果等の情報を共有する。 ４　測定実績（５月２５日集計判明分） ＨｂＡ１ｃ被測定者…１７人（区外５６人） うち、医療機関受診確認できた方…１人 ５　今後の方針 ＨｂＡ１ｃ測定自体は薬剤師会の事業であるため、区外から測定に来る人も多い。区民が気軽に測定できるよう啓発を行うと共に、足立区医師会・足立区歯科医師会とも連携しながら、糖尿病の重症化予防の強化を図っていく。

足立区薬剤師会への糖尿病重症化予防フォロー委託

別紙 11-1



資料 １２

地域保健福祉推進協議会

第１回健康あだち２１専門部会報告資料

平成２７年6月１６日

件　　名	国民健康保険の医療費と特定健診の糖尿病関連指標と今後の取り組みについて
所管部課	区民部 国民健康保険課 区民部 ジェネリック・保健事業推進担当課長
内　　容	足立区国民健康保険における平成 26 年 5 月診療分の歯科と調剤を除く疾病別費用額（保険者負担分と被保険者負担分の合計額）と、平成 26 年度に実施した特定健診受診者のＨｂＡ１ｃ(ヘモグロビンエーワンシー)の状況は、次のとおりです。 １　平成 26 年 5 月疾病別費用額（歯科・調剤除く）【資料１２-１】 これは、診療報酬明細書で請求された費用額を、主傷病で集計した費用額上位 20 位までのものです。 （１）　費用額の上位は　①腎不全　②高血圧性疾患　③糖尿病　でした。 （２）　件数の上位は　①高血圧性疾患　②糖尿病　③その他の内分泌、栄養及び代謝疾患　でした。 （３）　1 件あたり費用額の第 1 位腎不全には、人工透析による治療が含まれます。 ２　特定健診受診者のＨｂＡ１ｃの状況【資料１２-２】 平成 26 年度の足立区国民健康保険における特定健診受診者の状況は、別紙のとおりです。 日本糖尿病学会の糖尿病治療ガイドでは、この値の 6.5%以上を糖尿病型と区分しています。 ３　糖尿病性腎症重症化予防事業【資料１２-３】 糖尿病でかつ腎機能が低下し人工透析の予備群に該当する者を抽出し、健康状態の維持向上を目指します。 なお、この事業は委託により実施する予定のため、平成 27 年 6 月 8 日の個人情報保護審議会に諮問に結果に基づき進めていきます。

平成26年5月における疾病中分類別費用額

疾病中分類		件数	費用額	1件当たり費用額
足立区 合計		126,821	3,248,126,940	25,612
1	腎不全	859	279,392,960	325,254
2	高血圧性疾患	20,385	206,998,660	10,154
3	糖尿病	7,033	171,083,700	24,326
4	統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害	2,356	158,217,150	67,155
5	その他の悪性新生物	1,086	143,075,430	131,745
6	虚血性心疾患	1,598	94,171,190	58,931
7	その他の心疾患	1,480	92,214,880	62,307
8	その他の消化器系の疾患	2,486	91,183,130	36,679
9	脳梗塞	1,339	84,307,540	62,963
10	その他の内分泌，栄養及び代謝疾患	6,089	73,220,640	12,025
11	関節症	2,608	70,987,390	27,219
12	その他の損傷及びその他の外因の影響	2,477	69,361,400	28,002
13	脊椎障害（脊椎症を含む）	3,023	67,604,600	22,363
14	直腸Ｓ状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	294	66,680,460	226,804
15	脳内出血	384	64,422,140	167,766
16	骨折	790	59,659,080	75,518
17	結腸の悪性新生物	430	56,366,210	131,084
18	その他の神経系の疾患	2,306	56,193,240	24,368
19	気管，気管支及び肺の悪性新生物	318	48,902,380	153,781
20	その他の眼及び付属器の疾患	4,214	48,304,510	11,463

＊費用額とは、保険者負担と被保険者負担の総額を指す。被保険者の負担割合は年齢等により異なる。

＊東京都国保連「特定健診・保健指導支援システム」より抽出したデータを基に算出。

＊26年5月診療の全レセプトを対象とし1レセプトにつき1傷病名を特定して集計(歯科・調剤レセプトは含まない)。

傷病名の特定はレセプトにおいて下記優先順位に基づき実施されている。

①主傷病であるもの。

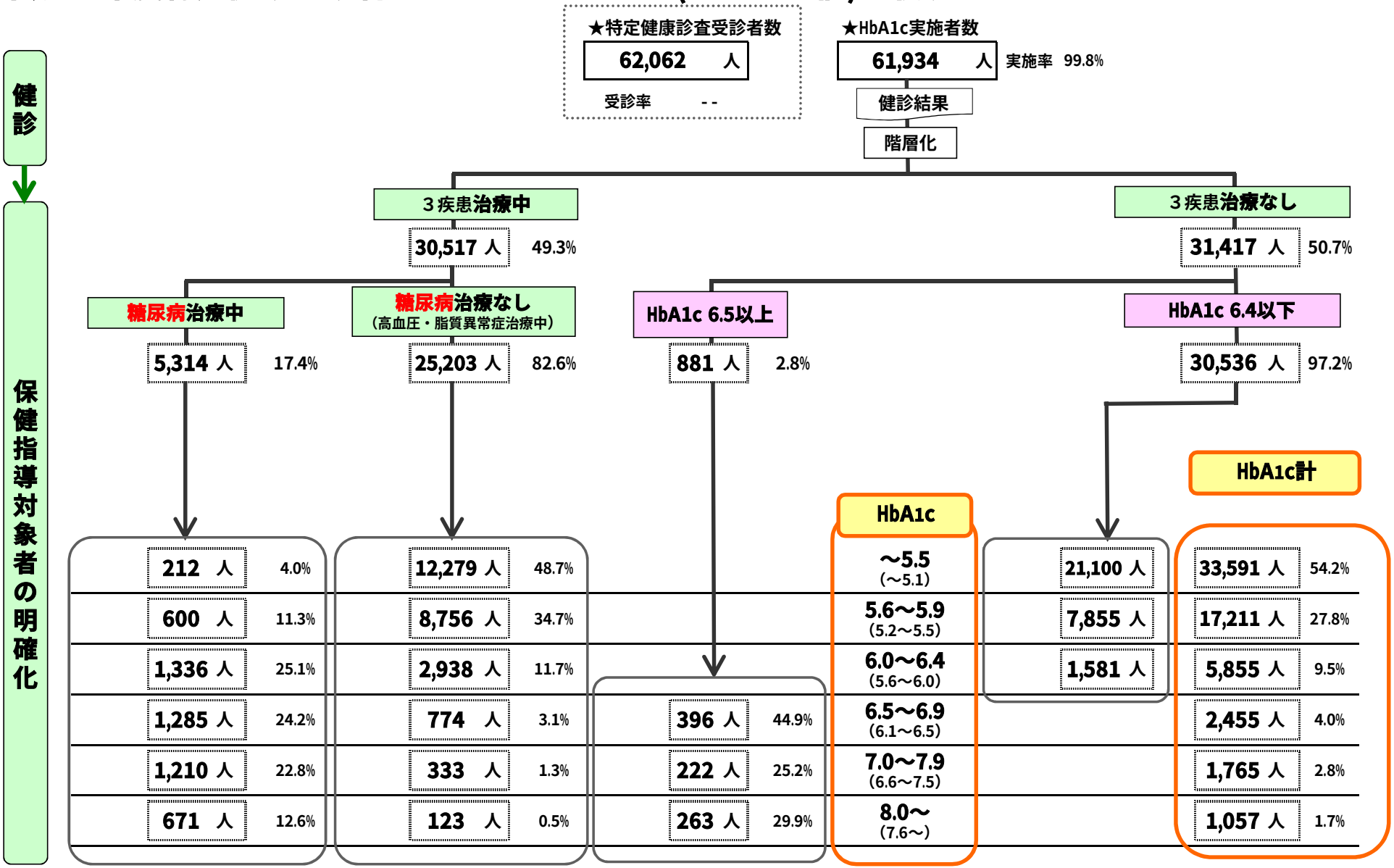
②主傷病が複数にわたる場合、レセプト傷病名項目、最上行かつ最左に位置するもの。

③主傷病がない場合は、レセプト傷病名項目、最上行かつ最左に位置するもの。

＊腎不全には、人工透析が必要な腎不全が含まれる。

＊表は費用額における順位を示す。

平成26年度特定健診受診者におけるＨｂＡ１ｃ(ＮＧＳＰ値)の状況



平成27年度 糖尿病性腎症重症化予防 対象者
条件：40-69歳 HbA1c7.0%以上 受診者 1790人/ 62062人

eGFR区分（ml/分/1.73㎡）			尿蛋白区分	正常	微量ｱﾙﾌﾞﾐﾝ尿	顕性ｱﾙﾌﾞﾐﾝ尿	未測定
				軽度蛋白尿	高度蛋白尿		
				A1	A2	A3	
				（−）or（±）	（＋）	（2＋）以上	
			尿検査･GFR共に実施				
			1,783 人	1,474 人	173 人	136 人	5 人
				82.7%	9.7%	7.6%	0.01%
G1	正常または高値	90以上	367 人	306 人	39 人	22 人	3 人
			20.6%	17.2%	2.19%	1.23%	0.00%
G2	正常または軽度低下	60-90未満	1,158 人	1,013 人	94 人	51 人	1 人
			64.9%	56.8%	5.27%	2.86%	0.00%
G3a	軽度～中等度低下	50-60未満	153 人	108 人	22 人	23 人	1 人
			8.6%	6.1%	1.23%	1.29%	0.00%
G3b	中等度～高度低下	30-50未満	90 人	45 人	15 人	30 人	0 人
			5.0%	2.52%	0.84%	1.68%	0.00%
G4	高度低下	15-30未満	12 人	2 人	3 人	7 人	0 人
			0.7%	0.11%	0.17%	0.39%	0.000%
G5	末期腎不全（ESKD）	15未満	3 人	0 人	0 人	3 人	0 人
			0.2%	0.00%	0.00%	0.17%	0.00%
未測定			2 人	2 人	0 人	0 人	0 人
			0.00%	0.00%	0.000%	0.000%	尿検査･GFR共に未実施

＊平成27年度 糖尿病性腎症重症化予防事業対象者数（予定）

最優先 対象者	83
対象者	118

資料 １３

地域保健福祉推進協議会

第１回健康あだち２１専門部会報告資料

平成２７年6月１６日

件　　名	平成２５年度糖尿病重症化予防事業における家庭訪問の結果
所管部課	こころとからだの健康づくり課
内　　容	糖尿病の重症化を予防するため特定健診受診者で未治療の区民を医療機関につなげ、合併症等で生活の質が低下してしまう区民を減らすことを目的に実施した。対象者の治療状況や検査結果の追跡を行った結果を報告する。 １　対象者：２４年度健診受診者で４０～５９歳までの HbA1c 値が 9.0%以上かつ未治療者　６７名 ２　実施機関と内容 【平成２５年１２月～２６年２月】　地区担当保健師が対象者を個別訪問および電話、面接 【平成２６年３月】　上記の働きかけを行いながらも、３月現在未治療のままであった者へ受診勧奨通知を発送 ３　結果 対象者：２６年度の国保特定健診受診対象となった６３名 Ｈ２６年度特定健診受診者　３５名 Ｈ２６年度特定健診受診の結果　HbA1c 値が１%以上改善していた者　２９名 上記の者のうち、HbA1c７%未満まで改善していた者　１１名

資料 １４

地域保健福祉推進協議会

第１回健康あだち２１専門部会報告資料

平成２７年6月１６日

件　　名	６月食育月間の実施について
所管部課	衛生部こころとからだの健康づくり課
内　　容	昨年 11 月に区が行った食習慣調査では、区民の１日あたりの推定野菜摂取量は平均 220ｇと依然低い状況であった【資料１４-１】。そこで区では、６月の食育月間に野菜を簡単・手軽に食べる実践方法の啓発等を、野菜摂取量の少ない若い世代や、子どもとその保護者に重点をおいて実施している。 別添…パンフレット参照 １　期間：６月１日～３０日 ２　主な内容 (1)　料理体験教室 ① 親子で野菜料理教室（５教室） ② プレママ家族お助け！野菜レシピ教室（２教室） ③ 学んで食べよう！親子ﾍﾞｼﾞﾀﾍﾞ教室（北足立市場食育ﾙｰﾑ） ④ 父子でつくる簡単野菜教室（２教室） ⑤ 野菜をつかった料理教室（３教室） ⑥ 野菜料理作り体験（区立保育園） (2)　あだちベジタベライフ協力店の特別サービス ① 野菜メニューの割引等（区内飲食店 27 店舗） (3)　野菜まつり　北足立市場での新鮮野菜販売（6/27） 別添…チラシ参照 (4)　講演会・講習会・その他事業 ①「野菜の日」の実施・給食だより配布（小・中学校） ② 講演会実施・食育展示等（各保健総合センター） (5) 啓発 ① Ａメール配信・フェイスブック：各週１回程度 特に若い男性に向けて手軽な野菜の食べ方について情報発信する。 ② パネル展示　本庁舎 6/1(月)～12(金) ギャラクシティ　13(土)～30(火) ３　主な参加・協力団体、関係部署

	北足立市場・あだちﾍﾞｼﾞﾀﾍﾞﾗｲﾌ協力店・ｼﾃｨﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ課 ｷﾞｬﾗｸｼｼﾃｨ(青少年課)・地域学習ｾﾝﾀｰ(地域文化課) 区民参画推進課・学務課・子ども子育て施設課 4　広報・周知 (1) あだち広報 5/10 号　食育月間特集 (2) リーフレット配布（30,000 部作成） あだちﾍﾞｼﾞﾀﾍﾞﾗｲﾌ協力店・保健総合ｾﾝﾀｰ等で配布 (3) ポスター掲示（1,500 部作成） あだちﾍﾞｼﾞﾀﾍﾞﾗｲﾌ協力店・保育園・小中学校等で掲示 (4) 懸垂幕(本庁舎･北千住マルイ)・横断幕(本庁舎) (5) ビュー坊テレビの活用 5　今後の方針 区をあげて「野菜から食べる」「簡単に野菜を食べる」をキーワードにした取組を実施する。野菜を食べることが日々の生活に浸透するよう、食育月間終了後も啓発を継続する。

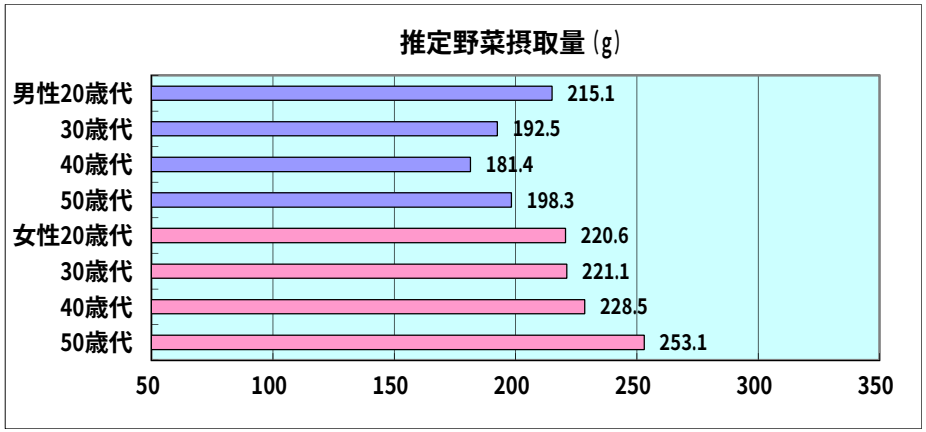
足立区　平成 26 年度食習慣調査結果

解析対象者が少ないため、あくまでも傾向としてご覧ください。

資料１４－１

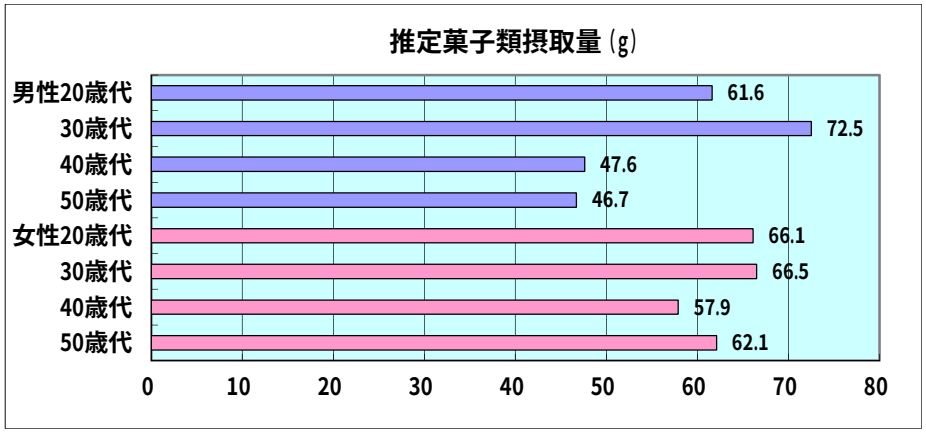
【調査対象】区内在住の 20 歳以上 60 歳未満（平成 26 年 9 月 1 日現在）の区民　1,000 人　＊ただし外国人は除く
【調査期間】平成 26 年 11 月 1 日～平成 26 年 11 月 30 日　【抽出方法】住民基本台帳から無作為抽出　【配布方法】郵送による配布・回収
【調査方法】食習慣質問票(BDHQ)による調査　【解析対象者】232 人(回答者 235 人)　【調査担当課】こころとからだの健康づくり課

1　推定野菜摂取量



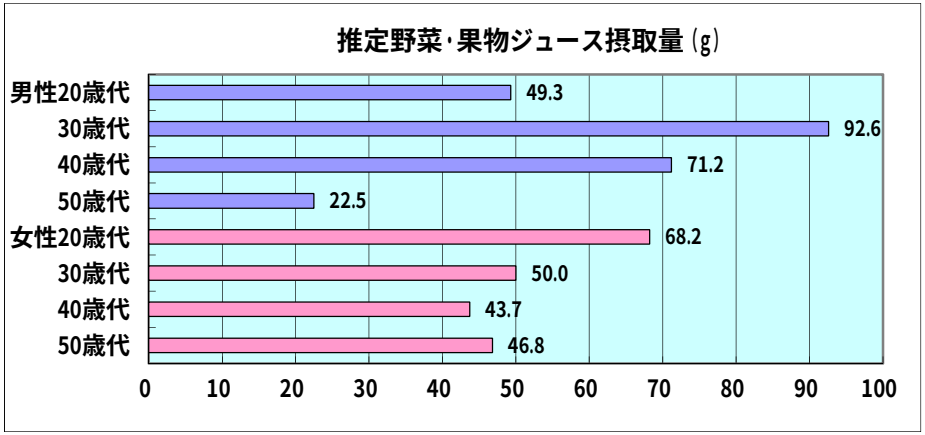
・区民の推定平均野菜摂取量は 220ｇであった。国が推奨する 350ｇ/日には約 130ｇ（小鉢 2 つ分）足りないということがわかった。
・女性より男性の方が野菜摂取量が少なく、また女性は若い世代ほど少ない傾向がみられた。

2　推定菓子類摂取量



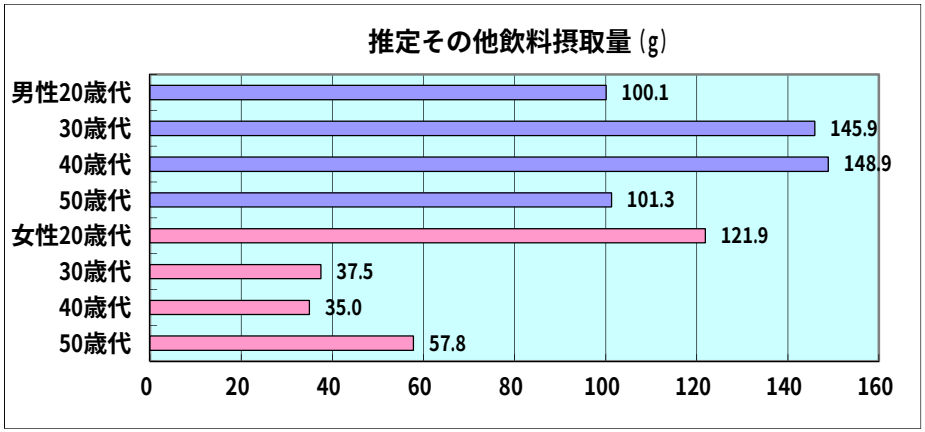
・「菓子類」は女性の方が摂取量が多く、若い世代ほど多い傾向にあった。
・特に男性は、若い世代の方が多い傾向にあった。

3　推定野菜・果物ジュース摂取量



・「野菜・果物ジュース」は男性の方が摂取量が多かった。
・特に男性は推定平均野菜摂取量の少ない年代が野菜・果物ジュースの摂取量が多い傾向があった。

4　推定その他の飲料摂取量＊その他の飲料は、コーラ・スポーツドリンク等



・「その他の飲料」は男性の方が摂取量が多かった。
・多く摂取している性別･年代が、野菜･果物ｼﾞｭｰｽと同様の傾向であった。

資料 １５

地域保健福祉推進協議会

第１回健康あだち２１専門部会報告資料

平成２７年6月１６日

件　　名	足立区糖尿病対策アクションプラン 「歯科口腔保健対策」の実施結果と２７年度の取り組みについて
所管部課	衛生部こころとからだの健康づくり課
内　　容	平成２６年９月に策定した「足立区糖尿病対策アクションプラン－歯科口腔保健対策編－」に基づき、関係機関等と連携して事業を実施した。実施結果と２７年度の取り組みの概要について報告する。

１　「０～１５歳の歯科口腔保健対策」の実施結果

（１）「あだちっ子歯科健診」の実施（資料１６参照）

（２）１歳ごろの親子歯科教室(こんにち歯ひろば)の充実

対象を９か月～１歳２か月児に拡大※1するとともに、内容に親子歯科健診を追加し、子どもの歯が生えはじめる時期の保護者に、歯の健康への関心が高まるよう啓発している。※1 H25 は 10 か月～1 歳 2 か月児

【こんにち歯ひろば　回数と参加人数】

	実施回数	参加者計	乳幼児数	保護者数
Ｈ２５	114	4,111	2,028	2,083
Ｈ２６	**130**	**4,773**	2,335	2,438

（３）６歳臼歯育成教室の取り組み

年長児および小学校低学年児童を対象に、足立保健所歯科衛生士が保育施設、幼稚園、小学校と連携して「ハ(歯)ロー！６ちゃんクラス」を実施し、永久歯のむし歯予防に取り組んでいる。

前年度と比較して、38 施設(1,656 人)増加した。

①内容：６歳臼歯クイズ、口腔内観察、歯みがき指導等

②参加者数（平成 26 年 5 月～平成 27 年 2 月実施）

【施設別実施内訳表】

	施設数 (H26)	実施数	園児 (児童)数	保護者数	合計
認証保育所	12	2	12	0	1
区立保育園	38	38	799	138	937
私立保育園	56	25	493	13	506
区立こども園	3	2	89	0	89
私立幼稚園	52	23	1120	379	1499
区立小学校	70	15	1032	245	1277
計	**231**	**105**	**3545**	**775**	**4309**

※認証保育所施設数は、年長児が１名以上在籍する数

（４）あだち版・子どもの歯みがきマニュアルの作成

保育施設・幼稚園・小中学校における歯の健康学習ならびに歯みがき習慣づくりに活用してもらうため、「あだち版・子どもの歯みがきマニュアル」を作成・配付した。

【配付先】認証保育所、認可保育園、区立認定こども園、私立幼稚園、小学校、中学校、足立区歯科医師会、保健総合センター等

（５）スキルアップ研修会の開催

関係機関職員を対象に、「子どもの歯と口の健康」に関する講演会を開催した（3 回　128 人）。今後は、むし歯が多い地域で重点的に実施していく。

２　歯周病の重症化予防と糖尿病予防に関する実施結果

（１）野菜からよく噛んで食べる習慣づくり

・大学学食、民間食堂と連携し、「野菜からかむカムランチキャンペーン」を実施した。（6 回　かむカムランチ：485 食）

（２）歯周病と糖尿病の関係に関する啓発

・リーフレット「血糖値が下がらない原因は・・・糖尿病だった!?」を作成し、医師会、歯科医師会、薬剤師会、保健総合センター等に配付した。

３　２７年度の主な取り組みについて

（１）歯科健診（１歳６か月児･３歳児）の結果、要医療の子どもへの受診勧奨を強化し、確実に医療機関につなげる。

（２）「あだちっ子歯科健診(４～６歳)」の結果集計・分析をし、むし歯が多い地域における対策を検討する。

（３）「あだちっ子･いい歯推進表彰事業」を実施し、子どもの歯の健康づくりに取り組んでいる保育園・幼稚園を表彰する

（４）「６歳臼歯育成教室」の周知を強化し、実施施設を増やす。また、各施設で６歳臼歯に関する取り組みが実施できるよう、足立区オリジナルワークシートを提供する。

（５）歯周病と糖尿病が相互に治療効果があがるよう、重症化予防部会において、医科と歯科が連携するシステムをつくる。

資料 １６

地域保健福祉推進協議会

第１回健康あだち２１専門部会報告資料

平成２７年6月１６日

件　　名	「あだちっ子歯科健診」の取り組みについて
所管部課	子ども・子育て施設課、子ども・子育て支援課 子ども家庭課
内　　容	１　「あだちっ子歯科健診」の実施 平成２６年度は認可保育園全園児および、認証保育所３歳児から５歳児を対象に、歯科健診・受診勧奨・結果集計までを区が定めた統一的な方法で実施した。平成２７年度は対象児を私立幼稚園３歳クラス（年少）から５歳クラス（年長）および、未通園児に拡大し、歯科健診を実施していく。 ２　受診が必要な園児を医療機関につなげる。 平成２６年度には歯科健診実施後、治療が必要な園児への受診勧奨を実施した。平成２７年度は受診勧奨を強化し、未処置を放置している園児を確実に医療機関につなげ、むし歯を減少させていく。 ３　規則正しい食生活や歯みがきの習慣をつくる。 平成２６年度は適切な歯みがきや規則正しい食習慣が身につくように、歯みがきマニュアル等を活用したり、６歳臼歯体験教室（ハロー６ちゃんクラス）を実施したりして園児が基本的な生活習慣を身につくよう継続的な取り組みを展開していく。６歳臼歯体験教室（ハロー６ちゃんクラス）を区立保育園全園で実施した。平成２７年度は、私立保育園に体験教室を広げていく。

資料 １７

地域保健福祉推進協議会

第１回健康あだち２１専門部会報告資料

平成２７年6月１６日

件　　名	保育園での取り組みについて
所管部課	子ども・子育て施設課、子ども・子育て支援課
内　　容	１　「野菜の日」の実施 野菜への興味を深め、野菜を食べる機会を増やすことを目的として、平成２５年１０月より、区立園の給食で野菜使用量の多い日や、野菜を食べやすく工夫した日を「野菜の日」として設定した。２７年度からは小中学校と合わせ、月々の旬野菜のテーマを決め、１９日の食育の日に実施することとした。園児への声かけや、保護者へのレシピ・啓発メモの配布等で野菜摂取を呼びかける。 ２　野菜に親しむ体験 野菜の展示や皮むき、栽培、農家での収穫体験等、園児が野菜に触れ、親しみが持てるような様々な取り組みを実施している。特に２６年度からはホットプレートを活用した体験活動が盛んに行われている。 園児が野菜に親しみを持つこと、野菜を調理することから野菜摂取量増可につなげられるよう、２７年度も各園で随時実施していく。 ３　保護者の給食体験 給食をきっかけとして保護者の野菜への関心を高め、家庭での野菜摂取につなげられるよう、２５年８月より区立園で保護者の給食体験を実施した。２６年度は約３００名の参加があった。 ２７年度は実施方法を一部見直し、特に6月の食育月間には野菜摂取の啓発を強化して実施する。 ４　一口目は野菜から　【資料１７-１】 ２５年９月から「一口目は野菜から」の声かけを行うことにより、野菜摂取の意識付け及び習慣化を図ることを目的として実施している。２６年度に実施したベジタベアンケートにおいては、家庭において野菜から食べている園児（３～５歳児）の割合は平均３１％であった。２７年度も引き続きアンケートを実施し、取り組みの効果を確認していく。

資料１７－１

あだちベジタベライフアンケート結果及び体型との関連分析について

１　アンケートの主旨

区立園では、日ごろから食育（子どもたちが野菜に関心をもち、野菜好きな子を育てようと園で栽培したとれたて野菜を給食に入れる等）を行っている。特に２５年度９月からあだちベジタベライフ事業の一環として**『ひと口目は野菜から』**を合言葉に**ベジファースト**という健康的な食べ方を給食で実践している。そこで、園児及び保護者への事業の浸透度、食習慣の状況、事業の効果を確認し、見直しを図るためアンケートを実施した。

２　結果の概要　区立園４１園実施（平成 26 年 10 月）

（１）対象者：３・４・５歳児の園児及び保護者

（２）配布数：２７９１枚

（３）回収数：２２３６枚

（４）回収率：８０％

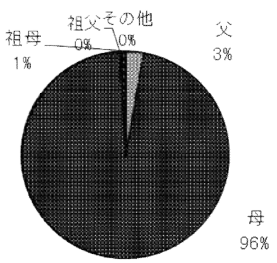


図１　記入者の続柄

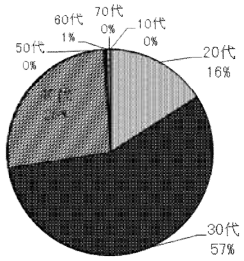


図２　記入者の年代

（５）園児の家庭での野菜の食べ方結果

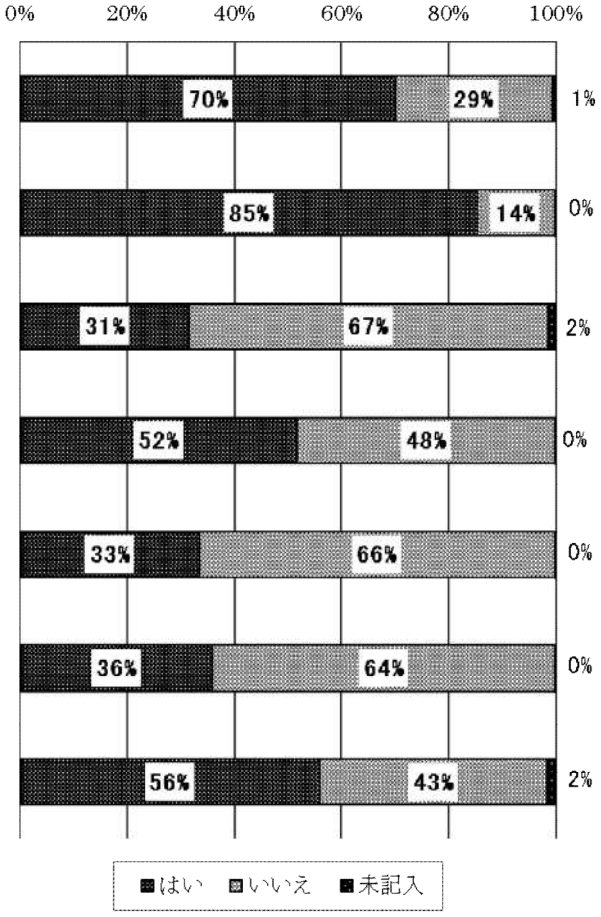


図３　園児及び記入者（保護者）のアンケート集計結果

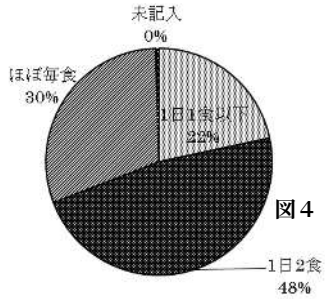


図４　記入者（保護者）の野菜料理摂取頻度集計結果

３　結果の返却

（１）園：アンケート結果を園ごとにコメント付きで返却

（２）保護者：アンケート結果（区立園の平均と各園の平均）に足立区の糖尿病予防のチラシ、ベジタベライフ事業の資料を添付し園から配布。（３月）

4　国立成育医療センター分析結果

身長・体重から体型（ＢＭＩ）を算出し、体型とアンケート結果の関連性を調べていただいた。

【全体】

・やせ＋やせ気味が１２．６％、肥満＋太り気味が１１．９％。

・やせも肥満も男児の方が約１．５倍多い。

【男児】

・男児が家庭において「ひと口目は野菜から」食べていない場合、食べている男児に比べ、太りぎみとなるリスクが１．６倍。（図５参照）

・保護者が野菜の必要量を知らない場合、知っている場合に比べ、男児が太りぎみとなるリスクが１．６倍。

・保護者が区立園で「ひと口目は野菜から」食べる取り組み実施を知らない場合、知っている場合と比べ、男児がやせとなるリスクが２．３倍、また肥満となるリスクは１．５倍。（図６参照）

図５　野菜から食べていることと、体型との関連(男児)

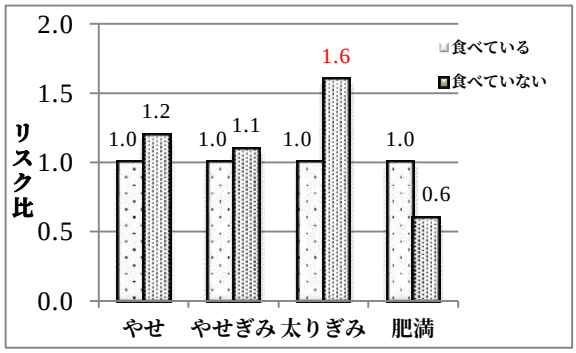
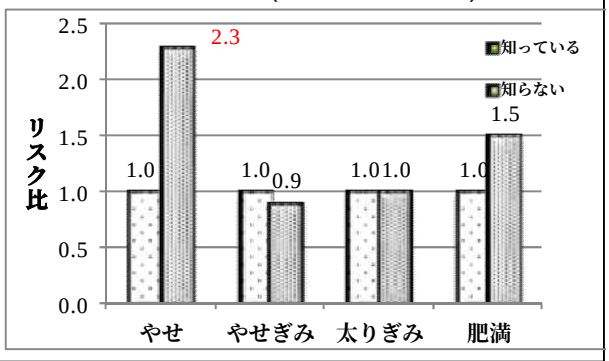


図６　区立園のベジファースト取組を知っていることと、体型の関連(男児保護者・男児)



【女児】

・女児が家庭において「ひと口目は野菜から」食べていない場合、食べている女児に比べ、やせとなるリスクは１．６倍、肥満となるリスクは１．５倍。（図７参照）

・保護者がベジタベ事業を知らない場合、知っている場合に比べ、その女児がやせとなるリスクが３．３倍。（図８参照）

図７　野菜から食べていることと、体型との関連(女児)

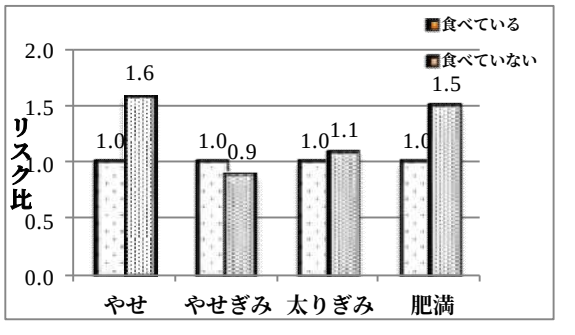
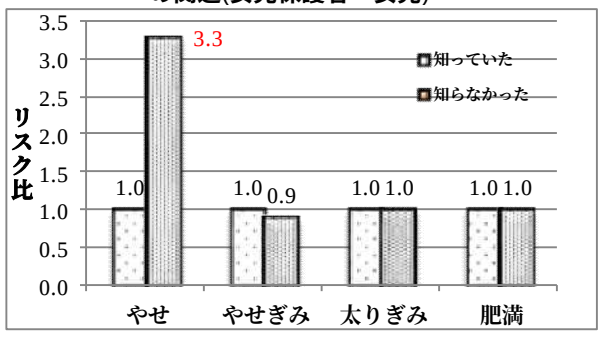


図８　足立区のベジタベ事業を知っていることと、体型の関連(女児保護者・女児)



5　まとめ

園児が家庭において、「自分から野菜を食べようとする」７０％、「食べられる野菜が増えている」は８５％であったが、『ひと口目は野菜から』食べているのは３１％。また、保護者の野菜の必要量、区のベジタベライフ事業、園の『ひと口目は野菜から』事業の浸透度は、３０～５０％台であった。

体型との分析結果においては、園児が家庭において『ひと口目は野菜から』食べていない、保護者の野菜の知識、野菜の事業を知らない場合、やせ又は肥満となるリスクが高い結果であった。

今後は、区立園でのベジタベ事業を強化、区立園以外の保育園等にも働きかけ、幼少期からの健康的な食習慣の形成及び保護者の食習慣改善を図り、糖尿病等の生活習慣病を予防する。

地域保健福祉推進協議会

資料 １８

第１回健康あだち２１専門部会報告資料

平成２７年6月１６日

件　　名	小中学校での取り組みについて
所管部課	学校教育部学務課
内　　容	１　「野菜の日」給食等の実施について （１）平成２６年２月から平成２７年１月（８月を除く）まで、１１ヶ月の旬の野菜を学校グループ（小学校８、中学校４）ごとに献立検討し、毎月１回各学校で「野菜の日」給食を提供。あわせて、クラスや学校の掲示板、昼の放送等で野菜摂取の啓発と食育を実施。 （２）各小・中学校で配布している給食だよりに「野菜の日」給食の家庭用レシピを掲載、また、Ａメールを活用して「野菜」をテーマに給食献立を配信するなど、家庭での野菜摂取の推進を実施。 ２　小児生活習慣病予防健診の事前・事後指導について （１）健診後の事後講演会等の実施 ① 月　日　平成２６年１２月２０日　（場所：足立区医師会館） ② 対象者：平成２６年度健診を受診した中学２、３年生及び保護者 ③ 講　演「肥満・コレステロール血症について」 講師　東京女子医科大学東医療センター 小児科　　杉原茂孝教授 ④その他 ・個別相談（医師相談１３件・栄養相談２７件） ・衛生部による簡易血糖測定(血糖・HbA1c)　４９名（保護者２８名、生徒２１名）要医療　１名　要生活改善　６名（生徒１名含む） （２）学校医との連携（１１校） 主な連携内容 ① 学校医が中学校２年生に、小児生活習慣病予防のための事前指導を実施。 ② 学校医が健診結果を分析し、学校としての全体指導と個別指導の助言を行い、これに基づき養護教諭が事後指導を実施。 ③ 学校医が医療機関を紹介し、食事、運動、規則正しい生活習慣等について事後指導を実施。 （３）保健総合センターとの連携（５校） 主な連携内容 ① 保健師が「足立区の健康実態を知る」「将来の健康を見通した生活ができる」等を目的に健診の事前・事後の健康教育を実施。 ② 保健委員の生徒が、小児生活習慣病について保健総合センターで指導を受け、文化祭、学年集会などで発表を実施。

資料 １９

地域保健福祉推進協議会

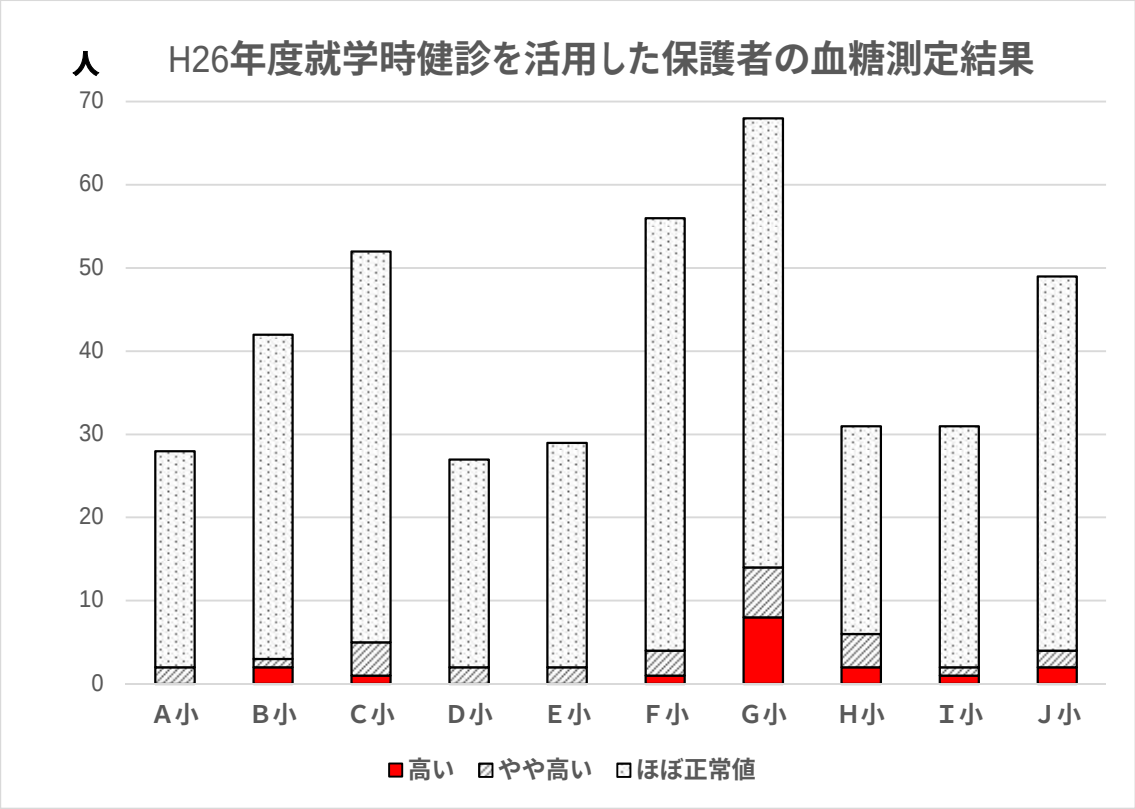
第１回健康あだち２１専門部会報告資料

平成２７年6月１６日

件　　名	平成２６年度就学時健診を活用した保護者への働きかけの結果について
所管部課	こころとからだの健康づくり課
内　　容	就学時健診の待ち時間を活用して保護者への糖尿病予防の働きかけを行った。 【趣旨】 1　これから就学する子どもたちが学校で落ち着いて授業を受けるためには、「食事をバランスよく食べること」を始めとした正しい生活習慣を身につけることが重要である。「野菜が嫌いな子どもは多いが、野菜を食べることで、脳内の血流量が増え、集中力や記憶力の上昇にもつながる」ことを保護者に伝える。 2　同行した保護者への簡易血糖検査を通じて、自身や自身の子どもたちのこころとからだの健康に関心を持ってもらう。 【内容】 1　簡易血糖検査実施の趣旨の説明 2　希望者へ簡易血糖測定、結果の説明 【簡易血糖検査実施校・実施結果】 ２６年度は１０校、４２４人実施 ※実施結果は【資料１９－１】参照 【所見】 ・血糖測定の結果から血糖値が高い保護者数には学校毎に差があり、区民の健康状態は地域差があることが推測される。 ・「今後、食事の際はベジファーストを実践する」と話す人もおり、若い世代へ糖尿病予防を働きかけるとても良い機会であった。 【今後の方針】 ・２７年度も引き続き１０校で実施予定である。 ・簡易血糖測定と HbA1c 測定を実施予定。

H26年10月～11月就学時健診時を活用した保護者への簡易血糖検査実施結果

学校名	健診受診者数	簡易血糖測定数	血糖値		担当センター
			高い	やや高い	
A小	66組	28人		2人	江北
B小	81組	42人	2人	1人	千住
C小	127組	52人	1人	4人	中央
D小	61組	27人		2人	中央
E小	52組	29人		2人	中央
F小	90組	56人	1人	3人	東和
G小	91組	68人	8人	6人	竹の塚
H小	72組	31人	2人	4人	竹の塚
I小	42組	31人	1人	1人	江北
J小	81組	49人	2人	2人	千住



【就学時健診で血糖検査を実施する意義】

・糖尿病は糖尿病になりやすい体質が遺伝するといわれており、糖尿病を招きやすい生活習慣も親から子へと伝播する。

・子どもの就学時健診で糖尿病発症リスクの高い保護者に野菜摂取や生活習慣について働きかけることで、家族全体の生活習慣の修正につながり、将来の糖尿病発症リスクを下げることができる。

・この時期に子どもに必要な生活習慣を伝えることで、子どもは落ち着いて就学を迎えることができる。